

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（学術知共創プログラム）
フォローアップ報告書（令和6年度）

課 題	B：分断社会の超克
研究テーマ名	重層的アクターの協調を生み出す気候変動ガバナンスの構築—低炭素水素事業に着目して
研究代表者	石川 知子
所属機関・部局・職	名古屋大学・大学院国際開発研究科・教授
フォローアップ所見	
<p>低炭素水素事業に関しては、国際レベルや国際機関でまとまったデータがないため、各国の政府の発表する文書を全て精査し、関係者へのインタビューも行うという方針であり、令和6年度の研究計画の対象となる主要国（米中欧日）に続き、その後も対象国を広げ、同じように進めていく計画である。</p> <p>水素の国際取引に関する貿易ルールや技術移転ルールのマッピングについても、これらの国に関わる地域貿易協定（RTA）から積み上げ、気候変動関連紛争データの作成、気候変動の文脈における社会的操業許可（SLO）概念の整理（3G）、気候変動をめぐる分断要因に関し、企業等への調査（4G）、CC(U)S・低炭素水素事業の国内外の社会実装までのロードマップ、標準化動向レビュー（5G）などについても、同様に各国レベルからデータを積み上げる形で調査を行うこととなっている。</p> <p>結果として、国際機関など国際レベルで情報やデータがまだ十分に蓄積していない状況で、予想した以上に、広い範囲で各国あるいは地域レベルで調査を行うようである。さらにカーボン削減に加え、カーボンネガティブの技術開発も研究対象とする計画であり、研究対象は広く流動的で、各国の有限な資源をカーボン削減とカーボンネガティブとにどう配分するか等の政治的判断をも研究対象とならざるをえない。</p> <p>かなり広範囲で労力のかかる調査研究であり、もう少し問題を絞り込んだ方が、実現が容易な研究計画となることは確かである。一方で、研究プロジェクトチームのメンバーの広い興味関心と研究に対する熱意で、現在のような形になっていることも確かであるので、今後の研究成果を期待したい。</p>	